飯山市埋蔵文化財調査報告書　第18集

元宮地籍造成に併う埋蔵文化財
確　認　調　査　報　告　書

1988・5

飯山市教育委員会
(委託者)飯山市土地開発公社

例　　言

1. 本書は、飯山市大字飯山字元宮地籍に所在する埋蔵文化財包蔵地確認調査報告書である。
2. 調査は、飯山市土地開発公社より依頼を受けた、遺跡調査会が実施した。
3. 調査は昭和63年5月16日～19日の4日間実施した。
4. 調査関係者は、以下のとおりである。

会　　長	浦野昌夫	（飯山市教育長）
副会長	佐藤　清	（飯山市教育次長）
委　　員	高橋　桂	（日本考古学協会会員）
事務局	清水　宏	（教育委員会次長補佐兼社会教育係長）
会計監査委員	市川和夫	（土地開発公社事務局次長）
	佐藤正俊	（教育委員会庶務係長）
調査団		
団　　長	高橋　桂	（飯山南高校教諭）
調査担当	望月静雄	（教育委員会社会教育係）
調査員	田村滉城	
	常盤井智行	
作業参加者	丸山三二・小林新治・清水すみゑ	
	岡田　勤・高橋　繁・石黒京子	
	大塚一雄・長坂幸彦	

5．土地開発公社事務局関係者

服部栄八郎（局長）・松沢　孝（技師）・徳永恵子

6．本書は望月がとりまとめた。

1．概　　要

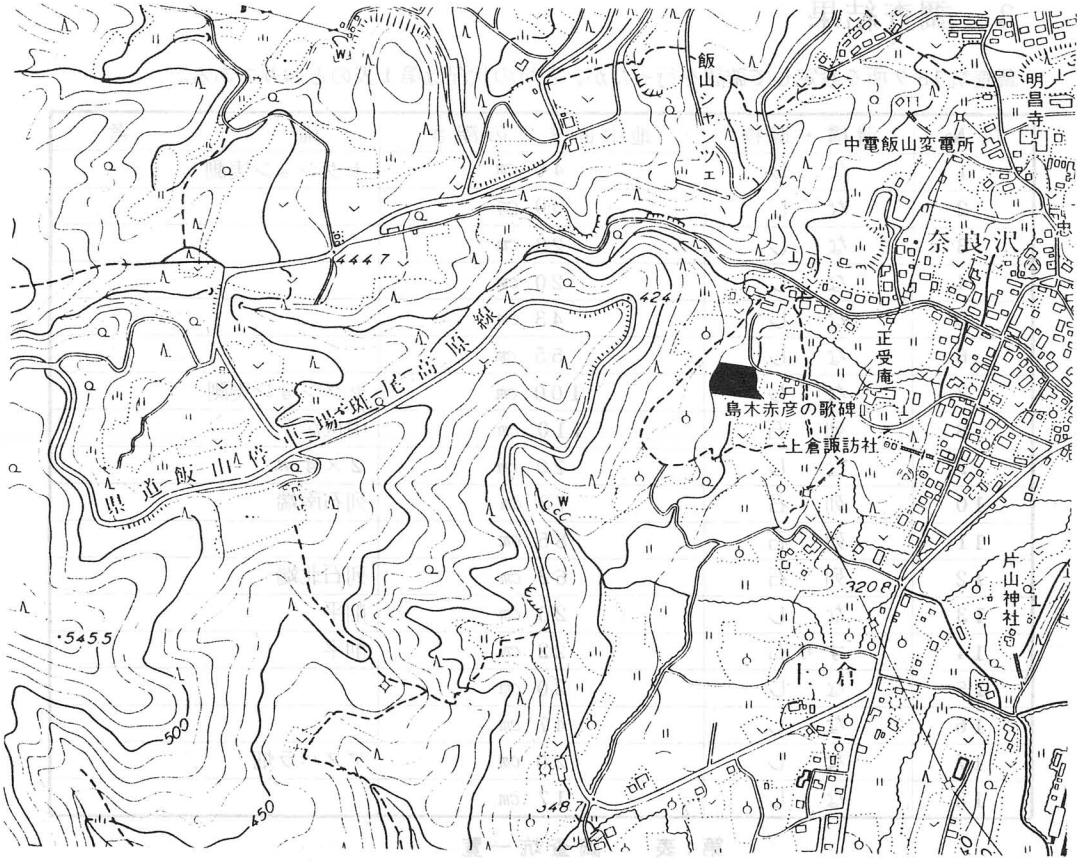
飯山市街地の西方は、藤ノ木～静間を結ぶ西まわり線の道路が整備されつつあり、それに伴い宅地化の傾向をみせている。景観もそうした傾向の中で大きく変わりつつある。

今回の調査に至る契機は、この西まわり線沿いに市土地開発公社により住宅団地造成工事が計画されたことによる。

本地区は、もともと周地の埋蔵文化財包蔵地として認知されてきたものではないが、昭和62年に行われた西まわり線工事により近接する「小丸山」より多数の五輪塔が出土し、付近が中世の墓域である可能性が高まった。さらに、東側の正受庵に接して上倉諏訪社が建つ小丸は居館址の面影を強く残しており、一帯が中世遺跡の可能性が高いことを示している。

こうした経過をふまえ確認調査を実施する必要に迫られたのである。

なお、本調査地区は、長野県スキー発祥の地「飯山」において最初のスキー場であり、「神明ケ丘」の名称は、いまだ多くの人々が愛着をもって呼称している。



第2図　遺跡の位置（1：10.000）

2．調査日誌

5月14日（土）　器材運搬・クイ設定

16日（日）　テント設営の後調査開始。No.1・2坑より着手。約50cmで基盤の黄褐色土層（二次堆積土層）に至る。出土遺物・遺構は認められなかった。本日はNo.1坑～No.8坑着手。No.5まで完了する。

17日（火）　No.8坑より列石状の石組出土。精査したところ一列に並ぶことが判明。出土遺物はないものの、坑外へ伸びるため、No.10・11坑を設定し、調査に入る。No.10で列石の南端を確認。No.11坑ではほぼ南北に走り、さらに北側へ続くようである。

18日（水）　No.12を新に設定。列石の北端を確認する。やや傾斜をもって南へ伸びている。No.13・14坑を設定、調査するものの遺構等は発見されない。なお、No.14坑においてすり石1点出土。また、No.12坑では微小土器片が3点出土した。時代は判定できない。

19日（木）　No.16・17坑の調査。耕作土15cmほどの下位は基盤層となっており、削平された痕跡が認められた。No.10・8・11・12坑で出土した列石状遺構の実測を行う。

3．調査結果

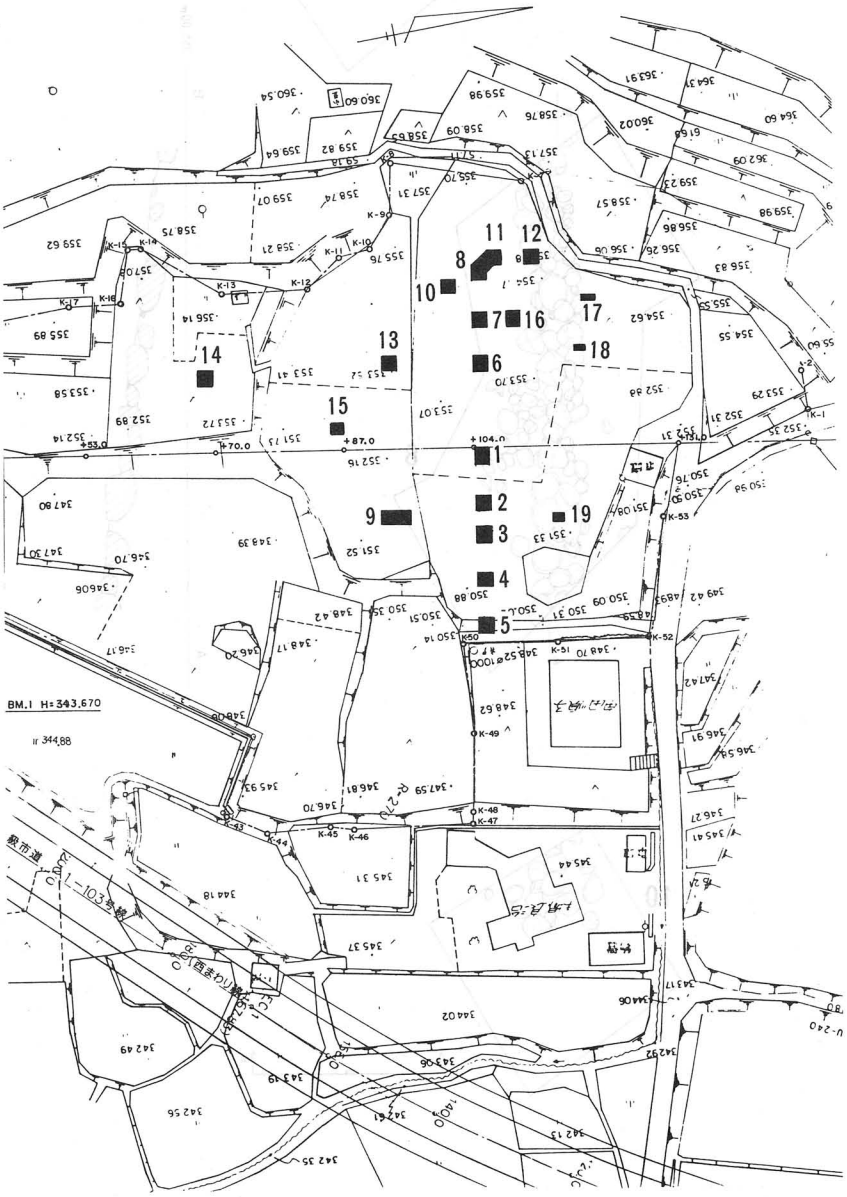
調査坑18ケ所を設定して確認を行ったが、各坑の状況は第1表のとおりである。

坑 No.	遺構・遺物	地山面までの深さ	備　　考
1	な　し	40 cm	セクション実測
2	な　し	30 cm	
3	な　し	23 cm	
4	な　し	20 cm	
5	な　し	43 cm	
6	な　し	55 cm	
7	な　し	100 cm	セクション実測
8	列　石	110 cm	中世か？
9	な　し	20 cm	2×4 m
10	列　石	73 cm	列石南端
11	列　石	85 cm	
12	列　石	62 cm	列石北端
13	な　し	20 cm	削平
14	すり石	22 cm	削平
15	な　し	20 cm	
16	な　し	47 cm	
17	な　し	20 cm	アスパラ畑
18	な　し	17 cm	

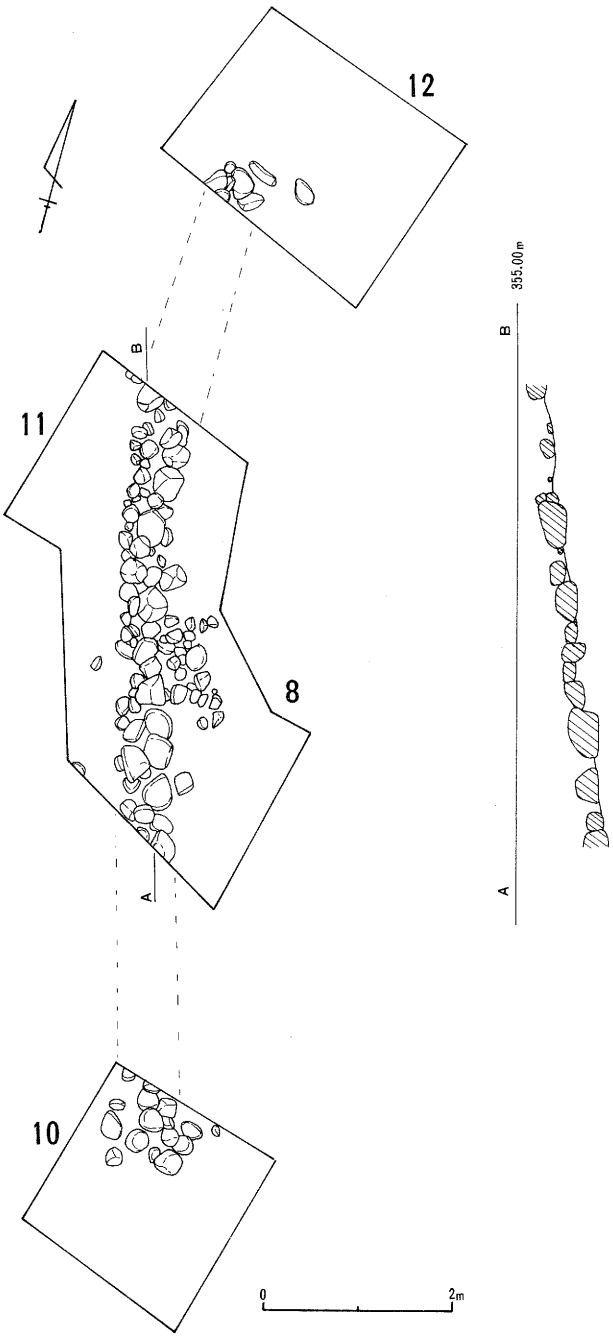
第1表　　調査坑一覧

18坑のうち遺構が確認されたのは、No.10・8・11・12と続く列石である。当該地区はNo.12～10へ傾斜を増しており、西側およびNo.10付近が最も低い地区となっている。旧谷状地であったことがうかがえる。列石は第2層中に含まれ、No.11で地表下50㎝、No.8で地表下60㎝より出土している。この列石は、全長約11ｍで幅50㎝を測る。中間ほどでややくの字状になり、列石に付随するように小礫のまとまったテラス状の部分がある。

なお、遺物はほとんど確認できず、わずかにNo.12杭において微小土師器片？を検出している。



第2図　調査区位置図（1：1,200）

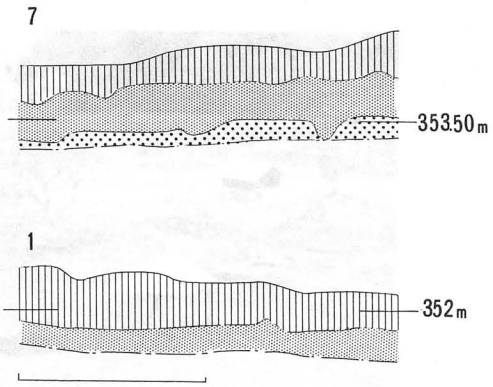


第3図　列石実測図（1：80）

その性格・時代とも不明と言わざるを得ない。

4。評　　価

対象地区内において18ヶ所の確認調査を実施した。総面積は約70㎡である。多くの地区においいて遺構・遺物は全く検出されなかった。造成が行われる予定であり、その意味において幸いであったと言える。



第4図　土層断面図

唯一検出された列石は、拳大から頭大の礫で構成されているが、その構築は極めて丁寧であり、側縁の並びを調整している点や、礫一個一個重ねている点は、それ自体が単なる土留め的な構築物でないことを示している。

しかしながら、時代判定が出来ず、またその性格もわからない現時点ではこれ以上の評価はさけたい。

調査区近景

作業風景

写真3　列石出土状態

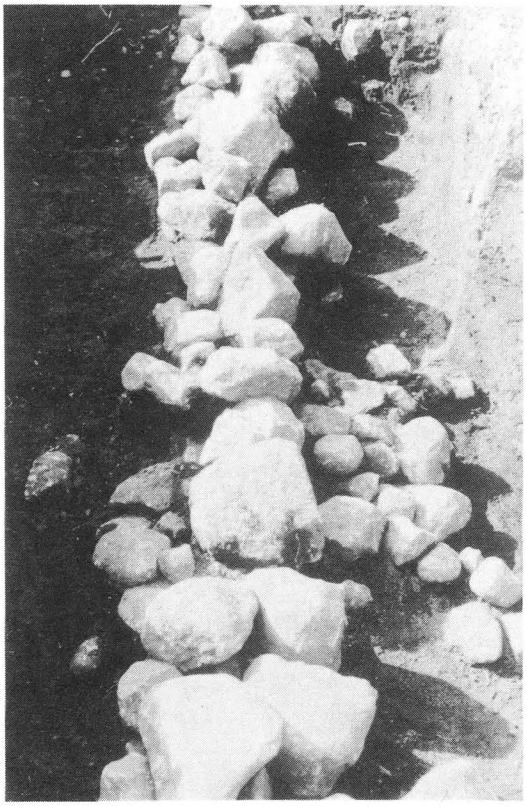


写真4　発掘調査参加者

元宮地籍造成に伴う埋蔵文化財
確認調査報告書

昭和63年6月20日

発　行　　飯山市教育委員会

印　刷　　足立印刷所